大正十年十二月十日發行

婦人衛生雜誌

第三百六十二號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌

第三百六十二號目次

講演

○妊婦の攝生に就て　女子醫學專門學校長　吉岡彌生

叢談

○若返り法の話　醫學士　福田得志

○鬼門　莊司秋次郎

○肌膚の艶色(承前)　越智耶輪

育兒

○小兒の呼吸器病豫防　ドクトル　ソーベル

○如何にして子供を賢くするか(下)　ドクトル　三田谷啓

家庭衛生

○冬仕度(上)　千木庵

○室内の色彩と光線

○糠味噌と大理石

○しみぬき法

雜録

○女教員の休養問題

○東京府の隣保館

○子供のお家

○ゆすり退治

會録

○十月例會　○本會懇親會　○評議員田村氏の訃　○入會

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

謹告

十二月例會は種々の都合に依り臨時休會致す事と相成候につき此段謹告候也

來年一月例會に付ては追て御通知可申上候向寒の砌且は歳晩繁忙の際特に會員諸姉の御健康を祈る

大正十年十二月

私立大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

醫學博士 原 榮先生著

肺病予防療養教則

根本的大改訂第十九版

どうすれば肺病に傳染せぬか、どうすれば
どんな難治の肺病でも癒るかと云ふ最も正
確な養生法が懇切に說いてあります。又肺病に關して知りたい事は何んでも此書に書いて
ない物はありません。婦人雜誌「主婦の友」が既往四年間に亘つて全國に募つた肺病全快實
驗談の應募中の八分迄は此書に依つて全治した者であつたと云ふ事實に見ても此書の眞價
は分ります然るに此書は今回第十七版の大改正で內容が今迄の倍以上となり教則も百〇七
條に增加してゐます。全卷有益の記事で滿ちてますから、前版迄の愛讀者も是非尚一度此
の新版を御覽ください。

全一冊
菊判本綴頗美裝
闊人紙數三百頁
正價金參圓
郵稅拾八錢

自然療法

大增訂第拾壹版

根治的の特效藥が無いから腸「チフス」は不治症であると
云ふ人はありますまい。肺病でも特效藥が無い丈けで適
當な療法で必ず癒る病氣である。其癒る原動力は藥で無い、「自然」と云ふ偉大な力である
世の人は此理由を知らぬから、何時でも正確な養生法を知らずに迷つてゐる此の書が一度
世に出まてしから、總て從來の不治症の治療に大革命を起しました。現代に如何に歡迎さ
れてゐるかは、出版後數年で第十版を發行してゐるのでも良く分ります。

全一冊
菊判紙數二百頁
正價金貳圓
郵稅拾貳錢

東京市本鄉龍岡町
振替東京四一八一番
吐鳳堂書店
電話下谷 一六七二番
　　　　 四〇七九番

講演

妊婦の攝生に就て

女子醫學專門學校長　吉岡彌生

今日は見苦しい本校の敎場に於きまして此神聖なる大日本婦人衞生會の講演會を御開き下さいまして、又本校生徒に御聽かせ下さいましたことは篤く御禮を申上げます。殊に古瀨先生と此學校とは非常な深い御縁故で、永い間敎鞭を御執下さつて、さうして御洋行なさいまして工場衞生社會衞生等に深い御造詣を御持ちになつて御歸りになりましたのですから、是非其恩故で一度本校生徒に御講演を伺はせたいと思つて居りました、つい今日まで延々になつて居りましたところを、幸にも此衞生會で御話下さいますと云ふことは何かの因縁のやうにも考へまして重ね〳〵御禮を申上げます次第であります。今日御出席の皆様方の多くは此大日本婦人衞生會創立當時から御盡力になられまして開會の都度講演の衞生講話を御聽になられ衞生の御思想はもう十分に御豐富でいらつしやる其役員及會員の皆様の前に私が御話を申すと云ふことは何等當を得ないやうな、且ひどく恐縮致す次第で御座いまして、どうも考へましたことも出ませぬと存じますけれども、私の職分と云ふことに自分も大變自重心を持出して、皆様方もどうぞあんな事はもう夙うから何十年も前から知つて居ると御考ではございませうけれども、併し醫師が斯う云ふ話をしたと云ふことを御召使なり御近所の出入の妻君達に御話になると云ふことも亦一の方便かとも考へますから、敢て皆様に申上げるのではございませぬ、さう云ふ意味で此處に立ちました

のですから、どうぞ其思召で御聽取を願ひたいのであります。

殺も庄司さんから御話のやうに妊婦の衛生と云ふことを申上げますが、別段取立てゝ珍しい話でもありませぬ、唯普通の妊婦及妊婦の周圍の方々の御行ひになる所、又疑問になさる所、時々醫師に斯う云ふことを聽いて見たいと御思ひになる所とか、何時もどうか此人達にもう少し教へて上げて能く呑込んでしまつたならば非常に安心して妊娠十箇月間が送られることではないかと考へまして、平凡な事を申上げて見たいと思ひます。

妊娠と申すものは申上げるまでもなく生理的のことでありまして、別段病的と云ふのでないから取立てゝ特別な衛生と申すこともありませぬけれども、併し平常の體とは違つて兎に角體内にあれだけのものを受胎して、受胎した以上發育させんければならぬ。それに就ては色々な方面に、血液の循環或は神經系統にも相當なる過敏症が起つて來ると云ふことを考へんければならない、それですから平常より特に一層衛生に注意を要することだけを申上げて置きたい。

一番に一般の方が心得て置きたいと御考になるのは、妊娠中の食物であります。此妊娠中の食物と云ふことは昔から非常に八釜しく言はれて居る、又色色な迷信からも、斯う云ふ物を食べてはどうとか、或は四足の子が出來るとか三つ口の子が出來るとか跛の子が出來るとか、食物からして色々な不具者が出來るやうなことを言ひ傳へられて居りました。それが爲めに食物を制限されるやうでありました。妊娠中は胎兒を發育しなければならぬ、それ故平生よりは一層滋養分が必要であるのに拘らず、斯う云ふ迷信からして却て榮養不足に陥るやうな事がありました。今は斯う云ふ迷信を解いて平常以上に榮養を攝つて胎内の子の發育するやうに、榮養を餘計攝ることが必要であると云ふことを頭に置かなければならぬと思ひます。それでありますから先づ私は妊娠

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なさいましたならばどうぞ今までよりは滋養分に富んだ食物を攝つて頂きたい。併し唯其容積が多いと腸も胃も平常よりは消化力も減じて居るから、腸や胃を害するから、之に就ては食物の消化と云ふこと、料理法或は食物の成分と云ふ方面を考へて、同じ容積で普通よりは一層榮養分の含まれた食物であると云ふことに重きを置くことが必要であると云ふことを申上げて置きます。

併し申上げるまでもありませぬけれども妊娠の初期には十中七八人の方は輕い惡阻と云ふものに罹ります、今まで大變好んで居つた食物が嫌ひになり、又嫌ひであつたものが好きになる、又一度に食べると閊へるので度々に食べて見たい、さう云ふ際にはどうかして榮養を攝らせんければならぬと云つて無理に側から強ひましても、それはむづかしい。平生自身が修養して居つて、妊娠したらば自分は斯うして丈夫に子供も發育が良いやうにと注意して居つて、食物も斯う云ふ食物を攝つたら宜からうと云ふことを平常から頭に沁込ませて置きますと一朝妊娠した際に精神的に其惡阻を輕からしむる事が出來ますから此心懸けが肝要であります。周圍から何を御上んなさいと言つても却々駄目であります。それが第一必要であります。

それで妊娠中の食物は何が好いか惡いかと云ふと、一口に申せば平常食し慣れた食物が好い、其上胎兒を發育させる丈の榮養分の多くを要するも餘り分量多きときは消化に困難なるを以て容積は少なくして榮養價に富む食物を選びたい夫には蛋白質に富んだ食物を攝る必要があります。今まで肉食を一回して居つた人は二回にし、菜食の人は少し肉食を殖やすと云ふ風にするのが必要である。唯刺戟性の辛いものとか、或は中り易い食物は氣を付けて攝らないやうにしなければならぬ。例へば滋養價はあるが消化の惡い貝類などを攝つた爲めに急性の腸胃加答兒を發して流産するやうなことがありますから、さう云ふ貝類などは攝らないやうにするが宜しい。又

冰水とか冬の時候に柔き柿とか云ふ樣な腹部の冷え易きもの及び蕎麥が腸に一種の刺戟を與へて下痢を發すことがあるのです、東京では一寸手輕に手に入るものでありますから能く之を食べる人がありますが、腸の刺戟が早產流產の原因となる虞あることは考へなければなりませぬ。果物は便通も好くしますし消化も催進しますから絕對に禁ずる必要はありませぬが妊娠すると餘計果物を嗜むやうになるもので、蜜柑一つか二つで濟んだ人が四つも五つも食べ或人は十も食べたと云ふこともあつて、其爲めに腸胃を害することがあります。でありますから果物は適當に食後に蜜柑一つ林檎一つ位は良いのでありますが、過度に攝ることは之を禁じなければならぬことゝ思ひます。食物に就ては左程申上げることはございませぬが、要するに斯う云ふ風な心理、兎に角消化し易くして而して榮養價に富んで居る物を攝る、さうしてそれは自分を榮養した剰り――と云ふてはいけませぬが、榮養しつゝ胎兒を發育せんければならぬと云ふことを念頭に置くことが必要であります。それ故に昔から言傳へられたやうな動物を食ふと四足の子が出來ると云ふ迷信をすつかり解かんければならぬと思ひます。

唯御注意申上げて置きたいのは妊娠中の惡阻、惡阻と云ふことに付ては大分誤解がある。それは昔から惡阻と云ふものは日が經てば治る、今如何になさつた所が到底醫師の藥が效かず或はどんな方法を取つても治るものでないと云ふことは年寄つた姑さん或は隣家の伯母さんあたりから聞くのであります。どう云ふ惡阻に對しても總て之を應用して掛る爲めに落さなくても宜い生命を落すやうなことが能くあります。之を一つ御注意申上げて置きたいと思ひます。一般素人方と云ふものは唯單純に御考になつて、一つの藥が例へば下痢に效いたとすると、直ぐ是は腹の病氣に效く、腸加答兒でも赤痢でも疫痢でも下痢するやうな病氣には何でも效くと考へる風がある、是は本當に科學的知識がなくてどれにも應用出

來るやうに考へる、斯う云ふことが賣藥などの盛んになる原因であります。是等と同様に病氣も類似の症候なれば同じ様なる經過を取るものと考へそれで惡阻と云ふものが、輕きも重きも日が經てば治ると云ふて居る事は大なる間違であります。惡阻にも二様ありまして神經性の惡阻と中毒性の惡阻とに區別します、神經性の惡阻は食物の嫌忌或は異常食物を嗜むとか又食物を考へても嘔氣を催すとか云ふ様な事は妊娠三ヶ月目位より起るものでありまして大抵二週間乃至一ヶ月も經れば治るものでありますが之に反して中毒性の惡阻と云ふのは體の内に一種の毒素が生じて是が神經系及び血行器系を刺戟しまして最初は氣持が惡い、食べると胸が苦しい或は便祕すると云ふ様でありますが漸次症狀が增しまして食べると食べた物を直ぐ吐く、其吐くことも一日に一回位でありしものが段々食べれば吐き食べれば吐き、食べなくとも吐くと云ふやうになり體力は衰へ口渇を訴へ實に苦悶します之をも一般にある神經性の惡阻と混同して幾日も〳〵今に治ると言つて放つて置く、一月も四十日も食物を吐いてどうしても治らないで醫師に諮る時は既にひどい症狀を起して精神狀態はぼんやりして居る、脈を取つて見ると百三十乃至百五十も搏つて居る、呼吸は逼迫して居る。少くとも熱が七度五分以上もあり體中垢が一ぱい著いて殆ど骨と皮許りみたいに瘦せ眼窩は陷沒して丈夫な時の人相とは違つた人相をして、舌などは殆ど乾燥して木ッ葉かなにかのやうになつて居る、是は中毒性の惡阻にして著しく衰弱致せし徵候でありまして斯く迄手遲れになりてはどんなに注射をしても人工墮胎をしてもあらゆる方法を講じても效を奏さない、もう十日早く來て呉れたならと云ふことが幾らもある。之をどうぞ皆様方は、惡阻と云ふものは生理的のものでそんなに恐いものではないが、一日中食べた物は皆嘔くやうな場合には普通生理的の惡阻でなく既に病的のものであるから醫師に見て貰はなければならぬと云ふことを、御出入の者にでも御諭

し下さいますことが婦人衞生會の御使命のやうに考へます。さう云ふやうにしたら助かる人が多いと考へます。神經性の惡阻でも矢張三度の食物の外食べなくても吐くやうな症狀もありますけれども、是は其人に暗示法を與へる爲めに入院でもさせます、さうして安心だと思ふと二日か三日でパタと止まることがあります。斯う云ふことは患者も喜びます、醫師も大變手柄のやうでありますが、實際放擲して置けば榮養不良となり餘病を起す事もありますから早く醫師に診て貰ふが宜いのであります。唯不思議なことは、惡阻が强くあつて榮養が行きませぬでも割合に體内の胎兒は良く發育するのであります。惡阻に對して色々な滋養灌腸をしますとか、强心法をやるとか云ふこともありますけれども、何れの方法をなすも效を奏せざる時は小の蟲を殺して大の蟲を助けると云ふことはどうしても流産法を行ふより仕方がない。それでも母子共に死にますより大變結構だと思ひますから、止むを得ざる場合には斷行する外はありません然れど妊婦を怖がらせると云ふことは宜くないことで、妊娠と云ふものは惡阻などがあつて怖いものだと云ふことを說明なさるのはいけませぬが、萬一吐くことでもある場合には早く手當をしなければならぬ、早く手當をすれば決して生命を落すと云ふやうなことはないのであります。

其他又一般昔から言傳へて居る物識お婆さん物識姑さんが危險なことを宣傳されることがある。妊娠中の浮腫であります。どうも斯うも身動きも出來ないやうになつて連れて來る、どうして早く御出なさらないかと申すと、姑がどうとかお婆さんが是は御産さへ濟めば治るからと言つて其儘にして居ると云ふことが能くあります。此妊娠中の浮腫と云ふものは先づ多く三種に分れて居ります。一般に能く稱へられる所の御產をすれば治ると云ふのが全く多い、それは壓迫性浮腫で、血行の不循環から來る、是は御產を終れば必ず治つてしまふ。が此壓迫性浮腫でも却々大變なのがある、腹壁などは十糎位に厚くな

つてしまふ、さうして陰脣も手拳大に膨れてしまつて、足は到底立てない、寢た許りで動けないと云ふ程になるのがあります。斯う云ふのは早く利尿劑でも與へたり强心劑を與へれば御產をしなくても結構治る。御產をすれば治ると云つて御產をするまで其儘にして置いて會陰破裂などを起すことがあります。壓迫性浮腫ですら此位のものがあります、然れども之は多くは左程の害なく治るものがある。故に之をどれにも應用して最も危險な腎臟炎及脚氣と混同するのである。腎臟炎は妊娠中屢々起る病でありまして此腎臟炎を其儘にして置きますと分娩を催し陣痛發作と同時に子癇と云ふ恐るべき病氣を起します。子癇を發しますと人事不省になつて痙攣を起して殆ど癲癇狀となつて口角から泡を出し時々舌を嚙む爲に泡に血を混じます、男の人が三人四人掛つて押へても押へ切れない程に力に痙攣が强くなる、顏貌はまるで變つてしまふ。もう一回の痙攣で喫驚してさうして醫師を迎ひにやる、醫師が來て手當をしますれば幸に治まる事もありますが母子共に死する事があります。浮腫はあつても御產をすれば治るなど〻云つて居つて其中に痙攣でも來るとするともう遲い、是は往々見るところで、妊娠中に浮腫を見出したならば直に醫師の診察を受け夫に向つて相當なる攝生をなしたならば斯る心配なる病氣は豫防する事が出來ます。又御產をすれば癒ると云ふ觀念は昔から言傳へる最も惡い習慣の一つであります。さうしてまあ幸に二三回の發作で早く分娩術を行つて子供が出てしまへばそれで納まりますが、後產期になつても產後になつても三回も四回も發ると成績の惡いことが往々ある。大分今では產科の手術も進み一般の知識も開けて來たので子癇で死ぬと云ふことは昔程でありませぬが、先づ子癇に罹らない前に一般の衞生思想が發達して居つたら、さう云ふ病氣の危險から免れることが出來ると思ひます。浮腫と云ふものも氣を付けて、早く醫師に御掛りなさいと云ふことを御勸めになることが大變宜いと思ひます。

第三には脚氣です。普通腎臟炎でございますと顏の方が何となく腫ればつたい、脚氣でありますと足の方が先に腫れて居りまして知覺が鈍くなりますから腎臟炎と稍々區別する事が出來ますが醫師が十分檢査をして初めて脚氣と腎臟炎と鑑別することが出來ます、又壓迫性浮腫であるか腎臟炎であるか脚氣であるかと云ふことは醫師にあらざる限りは鑑別するのは困難であります。それでありますからどれにも拘らず醫師に診て貰ふことが必要である。其脚氣が妊娠中左程でないと思つて居つても今御產氣附いた場合に突然非常に苦しがつて、寢かさうと思つても寢かされませぬ、汗をだら〴〵出してまだ子供が出ませぬけれども大變苦しがつて居りますからと言つて賴みに來ますが、是はもう殆ど脚氣衝心の徵でありまして、心臟の音はサッサッサッと云ふ音で淸凉な音は聞えない、息は殆どハッハッと苦しく、少しも橫になれない、胎兒が出やうとしても橫になれない、汗は絕えず淋漓として出煩悶が非常に强い。

一體分娩時と云ふものは極く落付いて自分の努力を加へて靜かにして居ると云ふことが分娩の法則であるが、到底落付いて居られるどころでない、斯う云ふ症狀が時々脚氣では來ることがあります。幸ひ斯う云ふ場合が通つて納つて御產が濟んだ所が腰が拔け手足の自由を失ひ所謂腰拔けとなるのであります。今私の病室にも二人許り入院して居りますが手も足も利かない、膀胱障礙 直腸障礙で一週間以上になるが灌腸をせねばならず導尿をしなければならぬ漸く此二三日手足が動くやうになつて來たと云ふ有樣です。それのみならず乳兒には折角天から與へられた榮養品たる母乳を與へることが出來ないで、人工榮養をしなければならない、此爲めに乳兒は消化不良を起す。自分の脚氣を粗漏にした爲めに、自分が非常に產後まで惱むのみならず、御子さんまで何時までも消化不良などを起させて、遂には天壽でない生命を取られるやうなことが往々見られる。それはどんなに自分が注意をして、先程古瀨先生の

御話のやうに紙幣まで殺菌せられた方でも腸窒扶斯に罹つて歿くなられたやうなことがございますから、注意しても及ばないと云ふことはありますが、出來得る限りの豫防をすると云ふことは矢張人たるものゝ本分と思ひます。どうか昔から言傳へて居る所の浮腫は御產してしまへば治ると云ふやうなことは是を打去つてしまつて、假令壓迫性の浮腫であらうが、何處から來たものであらうが生理的に少し違つたことがあつたら一應醫師に篤と診察して貰つてさうして安心の行くやうに、又治療するものならば治療を受けるやうにすると云ふことが大變宜いと思ひます。

それから能く聽かれますのは旅行、妊娠中の旅行のことであります。一般に海水浴は體に效く溫泉は大變良いと云ふことが近頃流行のやうになつて居る、それは適應症に依つては大變良いのであります。それも矢張今申上げたやうに一を聽くと何でも應用しやうと思つて、少しハイカラめいた質問に、こんなに暑い東京に居つてもいけないから溫泉に參ります、妊婦が斯う云ふ問題を出す、大變思はざる方のやうに思ひます。成程溫泉場へ行つて涼しい淸らかな空氣を吸つて居ることは大變良いことですが、妊婦が一日に何遍も溫泉に入ることは不可能であります、其上溫泉場は必ず山が多い、汽車で何時間も行き其次は自動車、其次は何とか馬車と云ふ具合に彼方へ搖られ此方へ搖られしなければならぬ、それですから斯う云ふことを先づ考へなければならぬ。溫泉場の空氣は却々良いが、溫泉に入るが爲めに却て色々な、道を歩いたり搖られたりして、其爲めに彼方へ著くか著かない中に流產をしたと云ふやうな事が澤山ある。是が第一注意しなければならぬ事であります。每年海水に行つたのに今年行かないのはど云ふやうなことを言はれる方がある、東京から一時間二時間三時間と云ふ位の處ならば海岸へ行つても差支ないが、妊娠中の海水浴は危險であります。是等も御諭しになつて頂きたい事と思ひます。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

それから特に申上げたいのは一般日本の婦人が自分と云ふものを沒却して居られる、大變謙遜し或は自信がなくて依賴心が多いのであります。妊娠すると自分と云ふものは打棄てゝ里方の母樣と云ふものを大變依賴すると思ふ。妊娠するまでに自分で妊娠したらどれだけの攝生をしやうか、分娩する時にはどれだけの用意が要つて覺悟が要ると云ふことを先づ自分で處理する事の出來る樣に能く御孃樣などに御敎へになつて御置きになつて、里方の母樣を御依賴にならない方が一番宜いではないかと思ひます。それは少し此席では御話し難いのでございますけれども、東京などに居る方が田舍の里方へ行つて御產をしやうと言つて汽車で旅行するなどは最も良くない、流產早產をするやうなこともあります。妊娠中何れの時期が動いて宜いかと云ふことを質問になるが、何れの時期もいけませぬ、まあ四箇月五箇月までは最も流產の多い時、さうして八箇月九箇月分娩期になると何時も早產し易いから何時の時期もいけないと云ふことを申上げますが、止むを得ない時は惡阻もなし稍々體も安まつたと云ふ六箇月七箇月が良いのである又之より遲れますと、早產の虞れがある。親御さんが大病だなどゝ云ふ時は時期を論じて居る事は出來ませんが他の場合には其時期を見るのが比較的良いのであるが、先づ何れの時期も宜くないと云ふことを申上げて置きます。それを東京のやうな醫師も產婆も澤山ある處に住居ながら御產が危くて心配でなりませぬから里の方へ參りたい、夫も二時間か三時間にて行かれる里程なら兎に角樺太邊りや北海道九州と云ふ國へ歸へりて行かれると言ふのであります。貴女は御歸りになるも宜いが、此方の御良人はどうなさいますか、と聽きます。是は御列席のやうな大家の問題ではない、中流以下の百圓か百五十圓位の官吏の奧樣などであります。私の留守には夫は下宿しますと言はれる。それでは誰方に結婚なさつたのですか、お母樣に結婚なさつたのか、貴女の御妊娠と云ふのは夫の方と二人で出來たの

で、二人で苦しむのが貴女の本分だらうと思ふ、お母様に御心配掛けるのが貴女の取るべき道ではない。と私は申します。左様に申して私が許しませぬでもどうでも斯うでも國へ御歸りになる方があります。さうして幸に安産する方も御座いますが途中に於て産氣附くとか位置が變るとか云ふ危險を侵さなければなりません。醫師の注意するのは百人の中假令一人でも危險があるならば是は避けなければならぬ。

幸にして二月三月を無事に經つて先づ夫を喜ばせやうとして東京へ歸つて來られる、豈圖らんやもう夫は舊の夫でない、子供もそつち除け奥様もそつち除け、斯う云ふ事が幾らもある。まあ左程までゝなくとも御話し難いが、奥様が歸つて御出になつて二三日も經つと大變下腹が痛んで下り物がある、と云ふので診察に御出になる。診察すると病毒が感染して居ると云ふ例は往々あります。故に私が醫師として流産早産を虞れるよりも御歸りになつてからの事を虞れるのです。が是は前以て、そんなになるとは言へませぬ、其時は信じ切つて居られますから、是れ程男の精神と云ふものは頼りにならない（笑聲起る）其頼りにならない精神を惹起するのは奥様が自分を頼りにしないから斯う云ふ結果を見るのであります。先づ自分と云ふものを本當に自覺して、妊娠したならば東京のやうな便利の好い處ならば日頃能く、是は分娩中の費用である、妊娠中の養生法である。それだけの經濟を立てゝそれに充てるやうにし、それ程不安に思つたら入院して安心して御産をする、入院するならば二週間多くて三週間、其間御主人も毎日見舞つて下さる、是が一番良いやうに思ひます。里方の親御さんも可愛い娘の妊娠を心配して呼還したりする事は親心で決して彼是申すではありませんが、娘さんの將來を考へらるゝ時は一時の愛情に驅られない樣に心懸けんければならぬと存じます、分娩後は特に病毒が感染し易い性質所謂過敏性を有して居るから斯う云ふ事が往々あるものであり

ます。よし以上の如き事は無最も品行方正なる良人であらるゝとすれば、尙更夫に對し主婦が二月三月留守にすると云ふことは家政上最も不便を感せしめ妻たる本分を沒却するのでありますから之は最も主婦として愼むべきものである、能く此點はどんな御方にでも知らしめて置きたいと思ひます。

其他皮膚の衞生と云ふことを餘程氣を付けんければならぬ、卽ち入浴を怠らぬ樣にせんければならぬ然れど自宅に風呂のなき家にてはどうも體が懶くなるし、最も惡阻のある時代は湯に入るのが氣持が惡い、湯に入ると吐く、御腹が大きくなると晝間行くのはきまりが惡い、夜行くと大變混んで居る、餘り不潔のところへ行くと病氣でも感染しやしないかと云ふ風で、前半期は惡阻、後半期は外形を虞れて湯に入るのが大變少い。體は胎兒を發育させるだけの榮養を餘計取つて居るので新陳代謝が昂まつて居る、皮膚の皮脂腺汗腺などは能く奇麗にして、垢を付けて置くのは極く惡い、それであるから每日湯に入るが宜い、なるべく熱くなく極く適當の湯にさつと入る、長くも十五分位に止めて置くのです。妊娠中には分泌物が多く殊に局所の分泌物が非常に昂まる、殊に瘙痒症と云ふものは局所の瘙痒の爲どうも斯うも睡れない、それが爲めに神經衰弱を起して體が衰へることがある。其方も豫防してさうして痒くなつたならばそれ相當に塗布藥もあれば內服藥もあります。それで入浴の必要があります、其入浴も餘り度が過ぎますと健康を害することが幾らもあるから、一日一度成べく短く、餘り熱くない湯と云ふことにするのであります。妊娠中は必ず便祕する、妊娠中に下痢するのは生理的でなく病氣で多くは急性或は慢性の腸加答兒です、妊娠中は先づ便祕が多いのでありますから便通を能く付けて置きませぬと胎兒の發育上に障りがあります。食物の消化不良なんかは便通を付けて治る事もある。之には藥よりも、每朝食鹽水の一杯を飲むが宜しい。是でもまだ付きませぬでしたら「カスカラサグラダ」錠位でしたら素人

の方でも害がなくて宜いのであります。若し峻下劑を與へますとそれが爲めに腸の蠕動を昂めると同時に流産早産の虞れがある。妊娠中の便祕には食鹽水か「カスカラサグラダ」錠位が宜いのであります。止むを得ない場合は灌腸もしなければならぬ場合もあります。

先づさう云ふ具合にしまして、妊娠中の攝生は決して一樣に行かないと云ふことを申して置かなければなりませぬ。いつぞや普請をして地形をする時に今にも崩れさうな御腹をして皆と一緒に何とか歌を歌つては仕事をして居ります、私が聽いて見ますと何等の障碍もないと云ふことで、其上に私も昔から斯う云ふことをする積りではなかつたが色々經歴を話したりして、此方で心配する程氣に掛けて居りませぬでした。さう云ふ風で習慣にして居る者は左程差支ありませぬ。能く往來などで背中に一人負つて自分は大きな御腹をして荷車を押して居る人があります。斯う云ふ事から推すと日頃慣れて居る仕事は妊娠中でもそんなに八釜しく言ふ必要はありませぬ。此處に御列席の方などがそんなひどい事をしては直ぐ流産早産をします。それで醫師も日頃の生活狀態に準じたやうに說明しなければなりませぬ。けれども一般の標準は成たけ努力しないこと、成たけ高い所に手を擧げないやうにする、それは高い所に手を擧げると腹壁を壓します、それから臺の上に乘つて物を取らないこと、それから上の御子さんがあると假定すると、さう云ふ御子さんに尿をさせるやうなことをしないこと、時に依ると妊娠近くなつてそんな事をした爲めに子宮の破裂までにも行きませぬが不全破裂などを起すことがある。斯う云ふ事は日頃心掛けなければなりませぬ。先日文部省で妊娠中及妊娠後の休む日數を聽かれましたので、慣れて居つたら成たけ多く終りまで學校へ御出になり、生理的であつたら二週間前まで御出になつて宜いと思ふ、餘り體操とか階段を上下される教室は持たされぬが宜からう、併し産後になつたら長く休ませて貰

ひたいと云ふことを提案して歸りました。が慣れた仕事でしたら私共のやうな仕事で俥に乘付けて居る者は一週間前にも往診などがあつて俥に乘つて參つたりなどしますが、皆私の同業の者などは餘り差支ありませぬ。先づ職業に應じ習慣に應じて取捨するのが必要であります。出來得るならば妊娠九箇月を過ぎて十箇月に入つて一箇月だけは靜な立働きをして居ると云ふことは一番安心であります。それで慣れた仕事は成べく多くした方が宜い、が餘り洗濯などは腹壁を壓しますからいけませぬが、臺所の仕事、室内の掃除などは却て運動を昂め消化を能くして宜いと思はれるのであります。併し惡阻時代には餘り食事が食べられないで、動作の爲め嘔吐を起すやうなことがありますが、是は傍から注意しなければなりませぬ。

　それから新鮮なる空氣と光線が最も必要であります。惡阻時代にも暗い部屋に陰鬱にして置くのはいけない、淸々として空氣と光線の良いやうに注意して置くと云ふことをしなければならぬ。それで時々郊外散歩などをするのは大變良い事で、餘り遠い所はいけませぬが東京を少し離れた草木の澤山あるやうな處に半日を淸遊するのは良いことであります。尙夫妻相携へて散歩をされると云ふことは精神上にも非常に良い事でありまして、今日は日曜であるから兩人相携へて何處かへ散歩に行くなどゝ云ふことは、非常に精神上の慰安にもなつて良いことゝ思ひます。

　少し時間がありましたら分娩時の事も御話申さうと思ひましたが、遲くなりましては皆樣の御障りになりますから、こんなことにして置きまして、又折がありましたら分娩及産褥時の事を御話申したいと思ひます。貴重な時間を拜借しまして杜撰な御話を申し上げましたが、幾分か是でも御參考になさつて下さいましたならば光榮の至りであります。

若返り法の話

醫學士　福田得志

いつまでも若くありたい、百歳までも二百歳までも生きたいとは誰人も願ふ所であるけれども、人間には壽命といふものがあつて、先づ百歳を超ゆるものは稀である。況や肉體の不老不死といふものは神話の中でもなければこれを求むることは出來ない。一旦老衰に陥つたものが若返へるといふやうなことは到底有り得べきことではないと、これは今日まで吾々の理性の認定して來た事實であつた。然るに、昨年頃から若返り法とか不老長生の法とかいふものが盛んに新聞などに書き立てられ、世間で騒がれてゐる。抑も、若返り法といふものは出來るものであらうか、若し出來るとすれば、吾々の理性の今日まで信じて居た所は誤りであつたらうか。私は、こゝにスタイナハ氏若返り法の原理を簡單に説明し、これに對する學界の態度を少しく紹介して御參考に供したいと思ふ。

スタイナハ氏若返り法

といふのは、男子の睾丸からその分泌物の流れ出る通路となつてゐる輸精管といふ管を結紮して閉ざして終ふといふのである。最もこの手術をしたのはリヒテンスタインといふ外科醫であつて、スタイナハ氏自身は大黒鼠で實驗したものであつた。

スタイナハ氏の鼠に於ける實驗によると、老衰して、毛が抜け毛色が惡くなり、又雌に對しても冷淡で性慾の發動を見せないやうな雄鼠にこの手術を施こすと、初め抜けた毛が又生え揃ひ毛の光澤がよくなり、又性慾が亢進して來るなど、全く若返つてこの手術を施こさなかつた鼠に比して餘程長生きをしたといふことである。雌に就ても實驗をしてゐる、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

それには既に老衰した雌鼠に、若い雌鼠の卵巣を取つて移植したのであるが、結果は雄に於けると同様で、毛が生え揃つて來た許りでなく、既に子を生まなくなつてゐたものが再び懷妊して子を生むやうになつて來た。この實驗は、睾丸及び卵巣の中に特殊の作用を有つてゐる或るものゝ存することを示してゐるが、生理學者はこれを内分泌或は「ホルモン」の作用としてゐる。

内分泌或は「ホルモン」

睾丸と卵巣とは男女の生殖腺を代表してゐるもので、こゝで生殖に直接關係ある精子と卵子とが造られることは普通に知られてゐることであるが、この外にも尙は重要な作用を有つてゐる。それは内分泌腺としての働きである。内分泌腺とは體内卽ち血液内に向つてある物質を分泌するの作用を有つてゐるものをいふのである。そして其分泌された物質を「ホルモン」と呼でゐる。「ホルモン」は體内の種々の臟器から分泌せられて血液の中を循環し、種々の臟器に對して樣々の作用をなしてゐるもので、有機體の臟器が相互に調節を持してゆく上に最も重要な働きがある。それでその働きが害はれて疾病を起すことも少なくない。例へば、甲狀腺といふのは吾々の喉頭部にある内分泌腺であるが、これが腫れて其作用が亢進すると眼球が突出して來る。副腎は腎臟の上に載つてゐる小さな内分泌腺でその「ホルモン」は高峯博士で有名な「アドレナリン」であるが、それが病變を蒙むると全身の皮膚が黑くなるアヂソン氏病といふものが起る。又、病的の巨人は腦下垂體の腫瘍のために出來るものが多い、矮人も亦他の内分泌腺の障碍と考へられる、糖尿病の如きものもこれに關係してゐることが多い。

卵巣及び睾丸の内分泌作用として吾人の知つてゐる所は第二次性徵の喚起である。睾丸のあるものは男性で、卵巣のあるものは女性である、かく生殖腺の孰れに屬するかによりて男女は根本的に別れてゐるから、この區別を第一次性徵といふのであるが、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

男女はなほその外に多くの差異がある。體格から見ても、男子は頭蓋が大きく肩幅がよく發達してゐるに比して、女子はこれ等の點で發達が劣つてゐるが腰部の發達は遙かに男子に優つてゐる。女子の聲は高音であり男子のは低音である、乳房は女子にのみよく發達してゐる。殊に性格は兩者の間に非常な差違があつて、女は所謂女らしく、男子は男らしい。かくの如き差異はすべて生殖腺の內分泌作用に基づくものである。故に、これ等の差異は生殖腺の發達の著明な思春期に急劇に明はれ生殖腺の老衰と共に漸次減弱してゆくのである。

今、スタイナハ氏の實驗に從つて、男子の輸精管を結紮すると精子の製造は出來なくなるがその代りに內分泌の方は旺盛になつて「ホルモン」が盛んに血液中に流れ込むといふのである。從つて、第二次性徵たる毛髮等の生え方に變化を及ぼすのみならず性慾も亢進し、又一般の榮養等も盛んになる。これがスタイナハ氏の實驗の原理である。女性に卵巢を植ゑた時にも同様の關係がある。

人間に於ける結果

スタイナハ氏は長い間鼠に就て實驗して、若返りの出來ることを確かめたので、終にリヒテンスタインといふ外科醫に依賴して人間にも試みたのであつた。その結果によると、健康な老人では、段々に皺がなくなり毛髮が生じ體重が增し筋肉も強くなり、若い時のやうに性慾も高まり思考力、記憶力も增して來たといふ。

スタイナハ氏は約十ケ年もこれを研究して昨年四月にその結果を發表したものであるが、元より自分でもこれを完結した研究とは思つてゐない。確かに若返りの徵候が見えてもそれが眞の若返りであるか或は單に外觀的であるか、又永續的のものでなくて僅に一時的のものかも知れぬ。殊に精神乃至肉體作業の亢進や性慾などいふことは暗示的影響も少くないから、この點も反省する必要がある。

老人に對する手術の結果も必ずしも旨くゆかない

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

と見えて、この手術に適するものとして、第一に健康なる老衰者、第二に老衰の初期にあるものを必要とすると制限してある。ウイーンのスタイナハ氏の所には今日では各國から手術を賴みに集まるものが毎日市をなしてゐる有樣であるといふが、然しその中にでも健康なる老衰の初期にある所謂手術に適當してゐるものといふのは蓋し非常に尠ないことゝ思ふ。

反對論

スタイナハ氏若返り法は、生殖腺の内分泌の衰弱が老衰の原因であるから、生殖腺の内分泌さへ旺盛にしたら老衰を防いで若返りを實現することが出來るといふことを原理としてゐる。然し、この說には反對するものが少くない。老衰のために或は老衰の一現象として生殖腺の衰弱が現はれるか、或はスタイナハ氏等の考の如くに生殖腺の衰弱が老衰の原因であるかは、もつと考ふべき問題であると思ふ。スタイナハ氏手術が合理的であるか如何かはこの點で決することである。

吾々の今日の考へからすると老衰が一に生殖腺の衰弱に基因するとは考へられぬ、睾丸を失なつた人間(戰時の負傷等)でも老衰の起らないことは吾人の知る所である。又、一歩を讓りて生殖腺の衰弱が老衰の原因であると認めても、老衰の結果として現はれた神經細胞や血管等に現はれた著明な變化が若返りに遇つて俄かに消退しようとは思はれぬ。

若し、かくの如き重要の器官に老人性變化が存在してゐるに拘はらず、唯獨り性慾のみが亢進したならば如何、吾々は必ずや滑稽なる悲劇を見ることであらうと思ふ。又、實際にかくの如き報告を讀んでゐる。老人の血管は通常彈力を失なひて破裂し易く心臟は衰弱してゐるものである上に、その中を流れてゐる血液の壓力は一般に高いものであるから、この際精神竝に身體の興奮は最も愼むべきである、さうでないと腦溢血卽ち卒中の危險が多い、然るに、通常ならば衰弱してあるべき性慾が若返り法で異常

に亢進したとすれば、精神の興奮、血壓の昇騰は相亞いで起り血管破裂、心臓虚脱の危險は目前にある。ウイーンのスタイナハ氏の所で手術を受けた老紳士が身心共に若返つて年少の婦人と結婚して倫敦に歸り來り、その悅ばしき經驗談を公衆の前に述べんとしてその當夜頓死したることは先日の日刊新聞に載つてゐたことで、まだ記憶に新である。尙ほ、この外にも危險に遭遇した例が少なくない。

思ふに、若返り法の如きものゝ流行あるは、享樂的なる現代社會の缺陷を曝露してゐるもので、發明者なるスタイナハ氏自身も却つて笑止な思ひをしてゐることであらう。

鬼門

莊司秋次郎

鬼門と云ふのは、支那傳來の陰陽道に於て唱ふる所の方位の稱で、卽ち東北の維を謂ふのであるが、何事につけ、この方角を忌むのである。例へば彼の家は鬼門に當るから緣組をせぬとか、彼の地は鬼門に當るから旅行をせぬとか、彼方は鬼門に當るから彼の醫者は賴まぬとか云ふ風に萬事につけてこの方角を忌み嫌ふのである。特に鬼門說の著纏ふのは家屋住宅で、所謂家相と稱して、その敷地住宅の方位構造、間取などに就て吉凶を判斷し、彼の家は鬼門に當つて井戸があるから病人が多いとか、何處に竈があるから、金が溜らぬとか、幾疊間と幾疊間が續いて居るから、祟りで中風患者を生ずるとか、種々樣々の事を言ひ出すのである。

斯樣な事を言ひ、斯樣な事を信ずるのは、今日でも決して愚夫愚婦のみではない、相當の敎育を受け、常識もありと見ゆる人々の間にも案外この家相信者や鬼門信者がある。要するにこれは科學的知識が足らない、科學敎育が徹底して居らぬからの事である。佛敎家などまでが斯樣な愚說を擔ぎ廻るのは以ての外の事である。由來眞の宗敎は迷信を排ひ妄想を退

くるのが本務である、就中佛教の如きは、もと〳〵科學的哲學的の基礎の上に發達して來た宗教であつて、陰陽說などに依て迷はさるべき筈のものでない。然るに我國の佛教は科學的進步に伴はずして、支那を經由して來た爲に、幾多支那人の迷信虛僞に滿ちた山師的哲學說が混入したのである。併し眞面目なる宗教家は斯樣な愚說妄想には誑かされぬ筈である。現に名僧等は、昔から斯樣な方位說などは信ずべきものでないと明かに云ふて居るやうである。實際貪慾を離れ、生死を神佛に一任して、正に己の爲すべき事、爲さゞるべからざる事にのみ精勵すると云ふ清淨の心を懷いて居る人ならば、假令今日の進步した科學的知識はなくとも、下劣卑俗な迷信に左右されるやうな事はない譯である。併し宗教家は、どちらかと云へば一般に理知よりも感情の人であるから、動ともすると些々たる迷信には陷り易い傾がある。迷信は全く感情に乘ずるのである。

さて話が少々傍徑に入つたが、家相と云ふ事も、元々好むで人を馬鹿にし、山師をやらうと云ふ惡意から發生したものでは無いに相違ない。何ぞ凶事がある、又不利益な事が續いた場合に、種々その原因を探究して、それが不明に終つた時に、偶〻その住宅の方位、間取などが、どうも氣に入らぬ、或は斯樣な事が凶事の原因ともなつたのではあるまいかと云ふやうな事に氣がつき、適當に改築した所が、それから凶事は起らず、吉事のみ多くなつた。そこで忽ちこの住宅の方位、間取が吉凶の直接原因であるかの如く感ぜられる。一度斯樣な因果關係があるものと思ひこむと、今度はこれを萬事に應用し、濫用するに至るもので、所謂家相說なるものは此の如くにして成立つたものに相違ない。それであるから未だ科學の進步しない時代にあつては、止むを得ない事であつて、それが出來るだけ智慧を搾つた精一杯の解釋であつたのである。

然しながら神鳴樣が現に電信、電話、電燈の御用を勤められて、御滿足をなされて居る今日に於て、鬼

門を怖れるのは聊か可笑しいことではあるまいか。鬼門〳〵と云ふのは、その本は、東北方に鬼星、それも全世界中で獨り支那人が――變な神祕的な命名術に長じた――支那人が命名した鬼星と云ふ星が東北方に在る所から生じた迷信に過ぎないのである。世は既に二十一世紀の世の中である。今日今頃斯樣な愚説に信を措いて居るやうな國民は、甚だ以て心細い國民と云はねばならぬ。余は警世の意味に於て今日斯の如き擬言を云はねばならぬのを悲むものである。

　とは云へ家相の良否が無いと云ふのではない。唯今日は今日相應の科學的見識から家相を論ずべきもので、百年二百年も昔の幼稚にして迷信に富める家相說を固執すべきものでないと云ふことを警告するのである。

　家相と云ふて、如何にも神祕的の變な細々したケチをつけるけれども、眞面目な今日の科學的見地から論ずれば、これは全く衞生學上の問題であつて、主として光線と空氣と水との問題に過ぎないのである。而かも、それが一から十まで中央支那の地理から割出した寸方で、緯度の相異も何も考へてゐない。支那崇拜の餘殃も程があるといふものである。

　例へば我國では一般に住宅は南面すべきもの、夏季に快いのを標準とすべきものときめて居る。所がこれを南半球に在るものとすれば、全然反對にしなければならぬ譯である。これでも尙ほ鬼門を東北方にとるや否やである。敢て南半球とは云はぬ、日本帝國内に於ても、北陸地方で夏季涼風を北から直接に受ける地方では、家の向き方を北面にするのを標準にして居る。

　光線に關してもさうである。一般に東南から受ける光線の快いことは申迄もないが、これは我國の多くの部分が、恰も東南の光線を悦ぶべき地理上の位置にあるからに過ぎないので、緯度の少しく高い地方になれば、夏は太陽が東北方(鬼門)から出て西北に沒し、冬は東南から出て西南に沒する。斯樣な場

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

合には、北向の室でも夏の朝と夕には日光を受ける。鬼門より來る光線とて敢て東南より來る光線と異る所はない、矢張人體には同じく快く感ぜられるのである。何れにしても、光線の射入十分にして通氣のよい室は、肉體上にも精神上にも有利なることは疑のない所で、特に我國の如き濕氣の多い島國では、これは衞生上最も重大なる要件である。

家相説に於ても、大體是等の衞生的見解に一致した説を取つて居る、これは全く經驗上より來たことで、何の不思議も神祕もない。家相上凶であると云ふのは、大抵その設備が採光、換氣の上に於て不都合で、常人の眼にも何となく體裁が惡い、住む人にも訪ふ人にも不快を感ぜしむる樣な構造になつて居る。斯樣〳〵な家は火災に罹ると云ふ家相も、常識から考へても如何にも火がつき易い筈の家續になつて居る。

斯樣な住宅であれば、その非衞生的構造の爲に病人が多く、延ひて種々の災厄が湧いて來る。訪問する人も何となく不快を覺えるから、從つて繁昌はしない、火事にも罹ると云ふやうなわけで、凶の凶たること疑を入れぬ。併し是等の家相の不吉は、何も神祕的の家相説に據らずとも、今日の精密なる合理的科學的衞生學に基いて立派に改築して不吉を拂ふことが出來るのである。而かもこの家相なるものは、專ら日本家屋に就ての妄說であつて、これからどしどし改良して西洋風の新式建築になつたならば、一寸その出鱈目の言ひ所に面喰ふことであらうと思ふ。誠に笑止千萬のことである。

今私が斯樣に正直に論ずるのを見て、兎角今の若い者は賢こぶつて、古人の經驗に富むだ貴重の事實をなみすると云ふて叱る老人があらうと思ふが、それは如何にもお氣の毒な事ではあるけれども、今日の進歩した科學的知識の缺けて居る悲しさで、奈何とも致方がない。それで私は決して斯樣な老人の見聞や經驗を蔑にするわけでは無いけれども、實際これを尊重して、更に後昆の爲に有利ならしめむが

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

爲には、現在我々の今有して居るだけの知識に依て嚴正にこれを批判し、その迷信、誤謬に屬する所は容赦なく打破して、眞理のみを取立てゝ行かなければならぬ、斯くてこそ眞の孝行と謂ふべきものである。方位とか家相とか云ふことも、鎖國主義時代の哲學としては、大分興味ある事であつたかも知れぬが、都市計畫に伴ふ建築が是非とも科學的に攻究せられねばならぬ緊急の今日に於て、古代の無智蒙昧の迷信に充ちた理窟に依て、文明の向上進歩に對抗し、これを阻碍せむとするが如きは、自ら文明の恩澤を避け、同胞の福祉を妨ぐる所の所爲である。我國現在の衣食住の狀態は、決して世界に誇るに足るべきものではない。何れの方面を見ても改良を要し改善に努めなければならぬ事ばかりである。就中住宅の如きは、全然改革を要する重大なる緊急の衛生問題である。此際に至て猶ほ且つ古代支那人の妄說を固執して云爲する如きは、餘りになさけなき惰眠の狀態に在るものかなと哀しまるゝものから、思はず此の如き愚痴も出るのである。

最後に一言するが、世俗の吉凶などいふ事は、要するに、その人の心の持やう、考へやうに由ることである。

肌膚の艷色（承前）

越智耶輸

皮膚の色澤、所謂肌色といふものは、二つの要素に因て定まるものであります。即ち血管の充盈狀態及び表皮の褐色素顆粒の含量に由て定まるもので、血管網の血液充盈の多少に由て或は皮膚が赤く或は蒼く見え、表皮の最下層に色素顆粒が多く蓄積せるか少しく蓄積せるかに由て、皮膚が黑く（「チーゲル」）或は褐色に（「インヂアチル」）又は帶褐乃至帶黃色に（南歐人、支那人、日本人）或は白色（北歐人）に見えるのであります。

皮膚色の赤過ぎるのは、屢々見受ける艷色缺陷で、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

歐羅巴婦人は特に恐れる所のものであります。之は先天性に或は後天性にも起るもので、表在性血管の擴張に基因するものであります。この種類の先天性美容損失は、勿論これを治す事は容易でありませぬ。後天性のものを除くには、先づ第一の要求として、この缺點を促す所の原因を避けることであります。その有害なる原因と目すべきものは、例へば頻回、急劇なる温度の變化、永い間戸外に居ること、烈しき凍冷等であります。是等の事が實際最も頻繁で且つ第一に問題となる所の原因的機會であるといふことは、身體の他の部分は、急性の炎症性變化を除いては、常に白く見えるのに、惡く赤くなる處は、必ず保護されず被覆されずに居る所の顏面とか手とか云ふ部分であることが、これを證明して居ります。百姓の赤い銅色の顏、水夫の露出して居る赤い胸、お三どんの赤い光る顏や、蟹のやうな赤い手、いづれも皆これが爲めであります。それでありますから凡て烈しい温度の變化を避けなければなりませぬ、例へば舞蹈室などに於てよく逢ふことであります。又天候の寒い時に屢々覆面に風を入れること、激しく踊つた後で扇子を使ふことなどは可及的避けなければなりません(我國では、まだ舞蹈などに無中になる連中は餘り多くないが、凡て斯樣な温度の急變に遭遇しないやうに注意せよと云ふ意味である)。それから新陳代謝の緩慢、便祕、「アルコホル」分の多い物や熱い飲物を多量に飲むことなども皮膚を過度に赤くするに足る事柄であります。

次に甚だ矛盾した逆説のやうに聞えますが、殊に若い娘さんでは、萎黃病といふものが(我國には餘り無いが、西洋の娘達には非常に多い病氣で、ひどく貧血するのが本病の特徴であります)顏や手や鼻を甚だ醜く赤くする所の最も頻次の原因の一つであります。これは如何なる理かと云ひますのに、萎黃病に於ては全體に貧血して居るのと、その血液が水つぽくなつてゐるが爲めに、內外の有害なる影響に對して血管の抵抗力が弱く、十分に收縮することが出來

ないで、痲痺した樣に擴張するからであります。この萎黄病の貧血狀態が久しい間繼きますると、最初は一時的の血管擴張も持續性となり、萎黄病が治癒して、血液が再び舊の性狀と色を恢復する時には、その變化を受けた部分の赤味は一層甚しくなるものであります。斯樣な譯で、佝僂病であるとか、重症の病氣又は虛弱な體質の人の如き種々の全身の衰弱狀態は、凡てこれと同樣の結果を來し得るものであります、即ち是等の場合には、いづれも血管の抵抗力が少なくなるからであります。

皮膚の薄弱な人々に於ても矢張これと同樣で、斯樣な人々は、夏でも少し涼しい晩には鼻尖や頰を紫色にするが、特に濕潤した秋や春さきには少し戶外に居ると直ぐ鼻尖が赤黑く耳朶や頰や手までが靑赤くなつて凍えて顫えてゐるのを見受けます。

治療法としては三樣の要求がある。即ち第一には何ぞ根本となつて居る所の病氣を治すこと、第二には全身狀態を強め、薄弱な皮膚を丈夫にし、第三には衰へた血管の緊張力を恢復することであります。この第一及び第二の點は、これは醫師に委かせ又前々からの各章を參考することゝせなければなりませぬが、第三の點に就ては、その擴張し弛緩した血管を引緊めて、再び持續性に狹く且つ抵抗力を保つやうにすると云ふ工夫になります。この目的には水を應用すべきことは既に前章に於て詳述した所でありますが、こゝには每日數回局處的に暫時間づゝ熱浴を行ふことを、もう一度お勸致して置きます。次には凡ての種類の皮膚の赤過ぎに對して良好の影響を及すべき藥劑の應用に就て詳しく申述べる積であります。

赤過ぎて醜くい皮膚の色を蒼くする爲に冷水を應用するが、水から藥品に移ると云ふことになりますと先づ「アルコホル」でありませう。「アルコホル」は速かに蒸發すると云ふその特性に依て、皮膚の上に可なり強い冷感を起しまして、それが反射的に血管の收縮を促し、その爲に皮膚が蒼白になります。併し

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「アルコホル」も冷水の場合に於ける如く、その效力は主として皮膚を強固にし、弛緩した組織の若やかなる緊張状態を恢復するに在るのであります。ところで「アルコホル」と云ふものは、ひどく水分を取つて、容易に脂肪を溶解いたしますから、これを久しく用ゐますと皮膚が甚しく乾燥して脆くなる嫌があります。それでありますから、特に皮膚の過敏な人は、餘り「アルコホル」を應用しない方が宜しい。これに反してひどく脂氣の多い皮膚の人には、それだけ一層「アルコホル」の應用をお勸めいたしますが、併しこれも久しきに亙つて用ゐる場合には水で大凡四倍位に稀釋したものを用ゐなければなりません。「オー、ドウ、コローニュ」は正にこの役をするものでありまして、これを用ゐます時には、毎日二回づゝ其部に塗布するのであります。（以下次號）

育兒

小兒の呼吸器病豫防

ドクトル　ソーベル述

著者は醫學雜誌「メヂカル、レコード」上に小兒の呼吸氣病豫防に就て頗る適切に又懇切に述べて居るので、時節柄その一節をこゝに抄出して參考とすることに致しました。

嬰兒及び幼少な兒童は、大人に比べて、氣候の變化を極めて鋭く感ずるものであり、又、大人には實際上何等の影響のない程の微かな溫度の變化も、幼少な兒童には感冒を惹き起すに十分な場合が屢々ある。殊に幼兒の鼻感冒は、漸次下つて危險を増大するものであるから注意しなければならぬ。この理由よりして、室があまりに溫か過ぎるのや、過度の厚著、寢室の通氣の惡いもの、足部をあまり包み過ぎ

るのも、或は露出することなどは、幼兒の呼吸器病の原因となる。又子供を育てた人は誰でも經驗することであるが、頭部を濡らしたり、手足を冷したり、濡らしたりすると、急性呼吸器病となるものである。手足が濡れたり、頭が濕る位の瑣々たる事が、そんな病因となるものではあるまいと云ふものがあるかも知れないけれども、余の經驗によればこれが幼兒の呼吸器病の大なる誘因となつて居るのである。これと共に、身體の表面を冷えさせぬやうにせねばならぬ。これには濕つた衣服や、靴下を著けたり、湯上りの後の身體の乾かし方が足りなかつたり濕つた日や、雨の日に裸體で居させたり、新鮮な空氣を與へるといつて風の吹く日に嬰兒を抱いて戸外を歩いたりすることは最も惡い。蓋し嬰兒や幼兒にあつては、足や頭が冷えたり濡れたりするとその部分の血行に障碍が起つて平衡を失ひ、血液の反動の結果として、身體の他の部分、鼻とか、喉とか、胃とか、腸とか、肺とかに充血を來すのである。その結果としては、ローゼナウ氏の云へる如く抵抗力を減退せしめ肺炎などに罹り易くなるのである。これは幾多の實驗の證する所である。

肺炎は新生兒及び生後二三ケ月の兒童には決して稀なものではない。而してその豫防も亦この時期には甚だよくなし得るものである。産室は一般に案外寒冷であるが、それが爲めに新生兒、殊に早産兒や、虚弱兒が肺炎に罹ることがあるから、産室は通氣を十分にして而もよく溫かにすべきである。

又、嬰兒の身體は、少し寒氣にさらしても、直きに肺に充血を來して、その結果肺炎となるものであるから、新生兒は分娩後直ちに注意して、手足の端までも冷えぬやうにしてやらねばならぬ。この簡單な注意を怠つた爲めに新生兒が肺炎に罹つた例は澤山ある。

又、産院に於て分娩した場合に、生れたばかりの新生兒を哺育室に抱いて行つたり、又、哺乳の爲めに母の室に抱いて來たりする爲めに、病院の廣い廊

下をあちこちと通る時などには、この點に非常に周密な注意を拂はないと、飛んでもない事になることがある。

これを要するに、幼少な兒童は、寒氣に對して非常に鋭敏であつて、全身又は身體の一部分を寒冷に曝らすことは、最も堪へ得ない所であり、それが爲めに種々の呼吸器病に罹るものであるから、注意して、幼兒の身體の溫暖を恒常に保つてやるやうにせねばならぬ。これよりしてあまり薄著は無論いけないけれども、あまり厚著をさせて置く事も、更衣、沐浴等の場合、溫度の差を急劇に變化せしめる事があつて、それが爲めに却つて感冒にかゝる場合があるから氣をつけねばならぬ。

如何にして子供を賢くするか（下）

ドクトル　三田谷　啓

こどもを賢くするには子供の智慧の特徴を見てその方面に益々發達させねばならぬ。例へば子供の手を引いて歩ますと同樣であります、敎育は斯樣にして導き且歩ませて行くものであります。

個々の特徴は如何樣にして見るかと言ふに、先づ

注意の力

を見ることが大切であります。

注意とは物を見たり、聽たりした事柄に氣をつけるこゝろの作用であり若し注意の力が弱ければ多く見ても、多く聽ても割合に氣に留めない、注意深ければ些細なことにもよく氣をつけて居るのであります。即ち注意深き子は凡て自動的でありまして、色色の事に氣をつけて居て質問致します、例へば動物

園に於て、或は運動會に於て、或は電車に乘れば電車に就て質問致します。

被動的の注意と言ふのは親があの大きな家を御覽なさいとか、これが鶴でありますなどゝ注意を促す樣にして初めて注意力を起すもので、子供を一寸外に連れて出るとすぐ注意力の大小は判ります、又或事柄に深く注意はするが他の事柄には一向注意せぬやうなことがあります。

斯かる場合はよくその注意する部分とせぬ部分とをしらべて見る必要があります。

記憶

記憶の强弱と言ふ事は注意すれば直ぐ判ります、其外事の種類によりて記憶の强弱が分れます。御婦人の方等は嬉しかつた事はよく記憶に殘ります。例へば、三月二十五日には夫と一處に三越へ行つて此帶を買つたなどゝ言ふ事を非常によく覺えて居られる。年齡或は子供によつて記憶の種類が異ひます。或人は非常に人の名をよく覺えるが、是と正反對に人の名を少しも覺えられぬ人がある、紹介をたのまれて困る樣な例は往々ございます。或は時日をよく覺える人がある。或は數字の記憶が得意で、他人の電話の番號などをよく覺えて居る人があります。それですから、こどもの記憶の種類と强さをよく調べることが大切であります。

思考力

こどもがものを考へる力を知ることも大事であります。創造の力、獨創の力、發明的の力、これ等は皆その人を賢にさせるところのものであります。思考力の優れたものはよく工夫をしたり、獨創の考があります、天才などゝ呼ばれる人は獨創の精神に富んで居るのであります。凡人の及ばぬところに考が及んで居るのであります。こどもの中にも獨創的精神が潛んで居て、作物を見たり、又話をしたり、物事を考へたりする間にそれが出て來る。それに反對に平凡のものは到底獨創的の考が起つて來ないのであります。

興味

個人が特に好む事柄を興味と云ふのである。例へば裁縫、音樂、或は茶の湯、活花或は料理と言ふ風な事に特殊の趣味を持つて居る人がある。すきこそ物の上手なれで興味の有無によつて能力が非常に相違して參ります。故に興味が那邊にあるやと言ふことを考へる事が非常に必要であります、こどもを賢くするには此興味を發見して、それに一致した敎育を施すことが最も大切であります。世の中にはこのことを一向考へずして世襲の職業であるから他の職業はいけないとか、親が嫌ひであるから文學者などにはさせないとか言ふ人があります。これは以ての外のことである。人の生涯は天職を見付けると否とによつて幸不幸が定まります。藝術の好きな人を商人にさせたり、醫學の得意の人を法律家にさせたりしては迚もその人は發展することが出來ないのであります。

そこで親たるものはこどもの最も得意の點を發見することが大切です。大阪には市立の兒童相談所や少年職業相談所があつてこどもの學校選擇や職業選擇の相談を受けて居ります。兩所ではこどもの身體と精神とをよく調査してその特徴點を見付けることを致して居りますから、便宜上右の相談所を御利用なさることも一策と存じます。

よく出來る子供にも種類がある

同じくよく學業が出來ると言ふうちにも種類があります。太郎は一番の席次であるが非常に勉强家で、殆ど學校から歸つても遊ぶ暇のないやうにして學業に熱心である、然るに源吉は同じく一番であるが、凡て學校に居る以外には机に向つたことなどないと云ふ。此の場合には太郎よりも源吉の方の頭腦がよいのである。若し太郎が源吉のやうにして居たら成績は到底一番に居ることは出來ぬであらう、これは同じ一番の席次に居てもその間に多大の差があるのです。それ故に成績のよいこどものうちにも後になつて學校を卒業をしてしまふと其働きが著しく前後

するやうになることがあります、それから

神童と稱して

新聞などで大に評判される子供が居ります。最もその中には眞の神童もありますが、假の神童も少からずあります。私はこれを假性神童と名けて居ります。かう言ふのは年をとると普通の人か、普通以下の人になります。日本で神童と言はるるものゝ多くは能書である。五歳や七歳で大人の樣な立派な字を書くので神童呼はりをするのであるが、寧ろこれは書字の神童と言つた方がよい。成る程文字を書かせると立派であるが他の精神作用は普通か又は普通以下のことがある。これ等はこどもが幼少の時から筆もつことが好きであつたゝめ親が手本を持たせて始終習字をさせて居たゞけのことで、その割合に大きくなつて特別上手の字を書くと言ふことも保證出來ぬ。然るに親の方では眞の神童と思ひ込み敎育の方針を誤つてしまうやうなことがありますから注意をせねばなりませぬ。私もこの種類の神童を見たことがあります。

脫線のこども

脫線のこどもに二種あります。上に脫線すれば普通よりも賢い子、下に脫線すれば普通以下のこどもであります。上に脫線したのはよい脫線で下に脫線したのは惡い脫線であります。

脫線の理由

そこで脫線の原因をよく調べることが大切である。原因は、生れつきと生れてから後に起つたものとの二種があります。生れつきは如何とも出來ませぬ。生れた後の原因で除くことの出來るものはこれを除かねばなりませぬ。例へば耳や眼や鼻がわるくてそれが爲めに低能兒に觀られるやうなことがあります。斯かる場合にはその原因であるところの耳、眼又は鼻の病氣を治療すれば腦の作用も恢復して來るのであります。

生れつきの財產

こどもの生れつきの賢さの低度は各違つて居りま

す。普通の子供が十のものを持つて居るとすると、低能の兒童は七か、五か、三かを持つて居るに過ぎぬ。若しその子供の教育の方法を誤つて居れば八つのものを持つて居る子供に八つの仕事をさす事が六ケしい、五のものとして或は三つのものとして不幸に此世を送る事となります。つまり教育の誤りから三なり五なりの損をして居るわけである。

若し教育の方法を改善して八の能力あるものは八丈け、五の能力あるものは、五全部を働かし得れば非常に幸福であります。これ等は普通の兒童と同樣に其得意の點を引き延して利用する樣に心懸ねばなりませぬ。

親が子供の小さい時に太郎は醫師に、二郎は軍人に三郎は商人にと言ふ風に初から勝手に「プログラム」を定めて其「プログラム」通りにやらせやうとして反て適當の職業を得ずして失敗する事があります。

假令智慧の足らぬ子供でもよくその特徴點を見付けて適當に導けば相當のことが出來ます。けれども八つしか持つて生れて居らぬものを十として働かせやうとするからそこに無理が起るのであります。

身體を無理せぬやうにせねばならぬ

こどもに學問をさせ又職業を選ぶ場合に身體の狀態をも同時に顧ることが大切であります。身體に不適當の仕事は全然これを避けることが必要です。例へば呼吸器の弱いやうな人は紡績や織物工場などで働くことはよくない。新鮮の空氣の中で働く仕事が適當であります。又心臟の弱い人などは重いものを持つ仕事や、山登、屋根職などはよくない、事務員のやうな職業がよい。神經質の人又は神經系統の弱い人は電話交換手、敎師、軍人等は避ける方がよい、聽力の弱い人は客を相手にする職業例へば應接人、音樂者等は不適當である。

子供の賢愚を知る法

子供の賢愚を知るには特別の方法があります。この方法を精神檢査法と名づけます。これに二種あります。

一は精神作用各種の檢査をして後にこれを綜合する方法である。例へば記憶、注意、觀念聯合、想像等の檢査法であります。

二は各種の心理狀態を分析的に檢査する法で、『テスト』法と稱して居ります(詳細は拙著智力檢査法及び智力檢査函につきて御覽を乞ふ)

兎も角右の方法によりて子供の智慧が普通であるか、普通以上か、それとも普通以下であるかゞわかります。これは將來こどもを敎育する上に大切なことであります。亞米利加などでは精神檢査を行ふ場所があつてそこで將來のこどもの處置を示して居るのであります。市立兒童相談所や市立少年職業相談所でも同樣のことを致して居ります。

結論

こどもの賢さには縱と横との二方面があり、縱の方は或一つのことに深く入る傾向で、横の方は多方面に渉つてよく物を知ると云ふ傾向がある、これは人々の天性であるから他人が勝手にこれを改めることは出來ぬ。

要するにこどもを賢くする近道はこどもの精神中最も優れたものを採用してそれを職業に結び付けるがよい。精神を應用するよりも身體を應用するのがその人を發展させ賢くさせると言ふことであれば角力取にさせるがよい。こどもの不得手のものを親が選んでこれをこどもに強ゆることは害ありて益はない。こどもの天性が既に普通より少いものを強ひて敎育で普通のものにさせることは困難である。敎育の力で天性のものを遺憾なく發揮させやうとするのが要點である。

家庭衛生

冬仕度（上）

千木庵

何時もながら婦人衛生記者は、少し原稿に窮して來ると、拙老をおだてゝ何ぞ書け〳〵と言はれるが、何時も申す通り早や今日の學問には遲れ、皆陳腐の意見のみであるから、もとより大口はきけず、或は却て世の進歩に邪魔をするやうなことにもならうで、差控へるのである。然るに、なに老人の體驗して來た所が貴いのだとか、一般の人の爲には若い先生方の六ケしい議論よりは、却て老人の通俗談が爲めになるとか、如何にも誠しやかの理窟を竝べて、とう〳〵何か書かねばならぬやうな羽目にして仕舞ふので、此度も亦々愚癡を言ふことになつた。素より老の寢言で何の參考にも役にも立つわけのものでない、順序とてもしどろもどろで、如何にも見苦しいが、これも致方がない。婦人衛生會の會員の中には相當の老人も多少居られようから、先づそれらの人々との茶飲話のつもりである。

*　*　*　*

本年はどうやら、ちと早く急に寒さが來たやうであるが、かうなると兎角老人は何よりも先づ冬仕度の心配である。それに就ていろ〳〵の慾望や小言が出る。

本邦の衣食住

私は年寄の癖に兎角過劇な生意氣な事を云ふ人間だと云ふ非難を蒙むる。これは自分にも多少左樣に考へぬでもないが、自分の感ずる所を正直に述べることになると已むを得ぬのである。先祖傳來の風俗習慣に就て彼此と不平を云ふのは、如何にも罰の當るべきことで、これには自分共も同じく責任の一分を負はねばならぬ事は能く承知致して居る。なれど

も幸か不幸か我々の如く中年以後に今日の如き文明の急劇な進歩に襲はれた者にとりては、昨日の事はこれを顧みるに丸で夢の如き感がある。それで現時の文明の恩澤に甘へて、その實自分の永年間養育されて來た所の過去の文明を非難するやうな事にもなるが、これとても徒らに忘恩の所以を好むわけでは決してない、皆々一刻も早く舊弊を脱して西洋人に劣らぬ程の文明の恩澤を享けるやうにと祈るからのことである。

一口に大袈裟に言へば、我國從來の衣食住は、現時の歐羅巴諸國及び支那の如き文明諸國の衣食住に比して、經濟上、外觀上、便不便及び衛生上の諸點から見て決して優つて居るとは思はれぬ。今日の理想に照せば甚しく低級の狀態にまごついてゐる、正直に言へば殆んど改良の餘地の無い行詰つた文明である。つら〳〵觀察するに、何處から何處まで萬事間に合はせ主義で發達して來た文明である。世にはこゝが我國の文明の特徵で、凡て簡素に善くいつて居る、西洋の夷共の企及ぶ所でない、我國の著物や室内の裝飾なども段々歐羅巴に流行して來かけて居るとか、凶作や戰爭の時などには、如何にも日本流の食物調理法の宜しいことが解かるなどゝ云ふて悦んでゐる向もあるやうであるが、果して如何のものであらうか。如何なるまづい事にも幾分の能はあるものである、少しばかりのお國自慢は誠に見苦しいもので、自慢高慢は利益にはならぬ。口惜しくとも他の振を見て我が振を直すことに心掛けねばなるまい。

住。先づ住宅に就て老人の不足、我儘を言ふて見るならば、第一日本風の家屋は寒むくていけない。尤も大金持の特別に贅澤な家はいざ知らず、我々中流以下の民家は、西洋の下宿屋、否、貧民窟の家屋よりも寒いらしい。現に獨逸國の伯林府などは、我が東京よりも冬は餘程寒氣が強いやうであるが、それでも寒くて學術上の研究に差支へるなどゝ云ふ不平を聞いたことがない、之に反して彼の地に留學し

てゐた若者共が歸朝すると、その第一年目の冬には必ず日本の冬は寒い、日本家屋は寒いと云ふて小言を云ふ。これは確かに家屋の構造及び煖室法の不備に由るものと察せられる。少しく考へて見れば寒い筈である。第一に南側には大概椽側と云ふものがあつて、その上に又その倍もある庇が出て居るから、日光も室内迄は射入ることが出來ない。床も疊と云ふもので隠れて居るから見えぬが、普通の家の床板は節だらけ、隙間だらけ、溝板同然のもので誤魔化して居る。縦令その上に疊は敷いてあるとしても、椽の下からは、どん〳〵風が吹上げて來る。疊と云ふ塵埃の瀦溜所を通過して來るだけ、衛生上にはいよいよ悪い。天井とても餘りこれに劣らぬ、少し風の強い日には上から盛に塵埃が降つて來る。「ペスト」病の流行時などには、本病の元祖たる鼠殿が天井裏に同居して御坐るのであるから、危険千萬な話である。室の周圍を成して居るものは、ペラ〳〵した紙で出來て居る所の障子や襖である。これでは外觀こそ立派な居室の様であるが、その實荒屋同然である。且又斯様な木と紙で出來て居る家であるから「ストーブ」の如き煖室法を講ずることは出來ぬ、僅かに火鉢や火燵を置いて、用事の無い家族の個人〳〵が手端や鼻端を焙るだけのことである。西洋人が寒中と雖も、室内では「シャツ」一枚で甲斐〳〵しく立働き得るとは大した相異で、その能率の上に於て、從て經濟上に於てどの位違ふか分からぬ。單に勞働ばかりではない、學問などをする人にとつても、現代の學術研究には、室内で寒さに戰慄て居るやうなことでは、迚も碌な成績が擧がるものではなからうと思はれる。斯様な家屋、斯様な居室は、家屋にして家屋の用を充たさず、居室にして居室の效なきものと謂ふべきである。少くとも現代の生活、現代の衛生上から見て丸で成つて居らぬ構造である。若し今日の小學校生徒に課題を與へて家屋を造らしむるに、從來の日本家屋の如きものを造るならば、どうしても落第點をつけねばならぬ。世には日本家屋は夏季の快

適を標準にとつて構造されて居るから、冬季に小言を云ふのは間違つて居るなど丶云ふ人もあるが、これは夏季に西洋風の家屋に這つて見たことのない人の言である。又なる程日本家屋は、採光の具合は餘り宜しくないが、その代り通氣、換氣の點に至つては迚も西洋風の家屋の比ではないなど丶自慢をする人もあるが、そんな事をいふのならば、通氣、換氣は荒屋ほど宜しいのであるから、荒屋が最も衛生的だと云ふ議論になる。最後に日本家屋の根本的の一大缺點は火が付き易いことである。昔は火事は江戸の華だなど丶云ふて喜んだが、今日では日本の大火は世界中の物笑ひである、その損失、その不經濟は實に莫大なものである。のみならず、一方に於てはその腐朽し易いのと、一方に於ては、この火災の爲に、あたら建築物が容易に烏有に歸して仕舞ふ。これが爲に我國には千年以上の歷史的に參考となるべき貴重の建築物とては甚だ寥々たるもので、偶ゝこれあるかと思へば皆甚しく改築されたものばかりである。そも〳〵家屋は文明人の生活の本據とする所で、以て風雨寒暑を凌ぎ、以て一日の勞を慰するに足るべき休憩所、以て世間の紛糾雜鬧を免れて專心精神的事業を劃策し得べき城廓、以て子女を教養し家庭の團欒を樂しみ得べき安住處であらねばならぬ。それ此の如き重大なる人生の需要を充たすべき家屋にして、以上述ぶるが如き諸缺點を有するものとすれば、これはどうしても大々的改良を要すべきもので、決して姑息的な我慢な負惜しみなどを云ふて濟まさるべき事ではあるまいと思ふ。然らば如何にこれを改良するかと云ふ事になると、愚老亦多少意見なしとせざるも、今玆にこれを開陳するは聊か不適當と存ずるので、又改めて論述することゝする。（以下次號）

室内の色彩と光線

雜誌「ファクトリー」に次の如き記事が載つて居る。

室內の天井や壁の色彩はその反射光線によつて室內の明るさに非常に關係の深いものであつて、眼の衛生上、仕事の能率上、又情緒的影響上から、學校、工場、家庭あらゆる方面に於て注意すべき事である。如何なる色が反射上最もよいかといふことを一塗料會社が調査した所(卽ち直接光線以外のもの)によれば、間接射光線を用ゐる場合に、白くよく塗つた天井は、普通の白又は鈍黃色その他これに類する色の天井に比して二〇乃至三〇%照明度が高く、なほ種々の色彩の壁によつて反射せられる投射照明率は左表の通りである。

白色(「エナメル」)	八〇%
白色	七九
「クリーム」色(光澤なきもの)	七一
眞珠色(白に近き灰色)	六三
鈍黃色(光澤なきもの、皮膚色)	五九
淡紅色(「エナメル」)	五七
緋襦子色	五六
「フランス」鼠色(白、黑、赤、藍の混合色)(エナメル)	三九
灰白空色(光澤なきもの)	三六
青色(「エナメル」)	三一
綠色(「エナメル」)	二九
赤色(「エナメル」)	二七
濃色(光澤なきもの)	二三
深綠色(光澤なきもの)	二一
葡萄酒色(「エナメル」)	二二
綠色(「エナメル」)	一〇

人工照明を用ゐる場合には、この照明率の低い色彩の室の燈火は、照明率の高い色彩の室の燈火よりも強い燭光のものを要すること勿論である。

糠味噌と大理石

糠味噌が臭くなつたり、酸氣が附たりすることがある。酸氣が強い時は大理石の破片を三つか四つ桶の中に打込んで置く事である。大理石はその細工をする店なら何處でも安く賣つてくれる。之れを桶の下の方に入れて置くと脫酸劑の作用をして直に酸味が止まる。又惡臭を發するのは酪酸を生ずる爲で、濕度の高い處に置くと發生するから、成るたけ濕度

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

の低い處に貯藏する必要がある、併し臭をもつた時は飯の洗ひ流しや腐敗に近い飯を入れると全く臭味は消えて且味もよくなる。

しみぬき法

著物の汚點は時が經つと取り惡いから、外出先等で直ぐ取れない時は、一時食鹽か砂糖を塗つて置くと乾きが遲くなるとの事である、かうして歸宅したら油や脂肪の浸みは「フランチル」の如き毛織物の上に吸取紙を敷き此上に汚點のある部分を擴げ、海綿か筆の先へ「ベンチン」油をつけて輕く擦り、上から吸取紙を當てゝ叩く事を二三囘繰返し、更に薄い白布を被ふて鏝で乾すとよい。

釘等の錆が襟についた際は、薄い時、醋酸を塗つて洗ふ、濃い時は錫の粉末をつけた上に、醋酸か蓚酸を塗り後で水洗ひする、但し色物は「グリセリン」を加へたものを塗り刷毛で叩き二三時間置く、酸類は絶對に用ひられない。又汗はすぐ水で洗ふがよいが、色が變つたのは「アンモニヤ」水がよい。

○女敎員の休養問題

文部省は女敎員の産前産後の保養問題に關し、各地方長官に對し左の如き照會を發し、囘答を求めつつあり。

一、産前産後休養に關し、發布せられたる規程の有無及其の內容
二、該規程の有無に關せず、右休養實行の概況
三、右休養に關し今後の處置に關する貴官の意見如何

○東京府の隣保館

東京府にては社會事業施設として、南千住の細民部

落を中心として「セットルメントウォーク」を建設する事となし、十月より其の工事に著手の筈、敷地四一八坪、建坪二階建一六〇坪にして、圖書室、治療室、音樂室、割烹室、食堂、遊戯室、體育室、保育室、教室等の設備をなす筈なり。

○子供のお家

東京市外目黒村目黒に、女子大學出身の門田つや子氏は、四歳より小學校卒業までの兒童に、家庭的敎育を施す爲「子供のお家」を創設して、之を園と寮とに分ち、寮は宿泊、園は終日又は半日世話をするので、寮は保育料、寮費、食費一切にて三十圓内外、園の保育料は辨當を除き半日は一ケ月貳圓五拾錢。終日は一ケ月五圓である、入寮の際に入寮料として五圓、入園の際は參圓を要し、今園生、寮生各十名宛募集中である。

○ゆすり退治

警視廳にては、種々の辭柄を設けて寄附の强請、印刷物の押賣等をなして市民を苦しむる惡徒輩を根絶する目的にて處々に左記趣旨の手紙を出したりと云ふ。

拜啓愈々御清祥奉賀候陳者近來銀行、會社、商舖、工場其の他一般住家に就き大要左記類例の如く種々の辭柄を設け又は巧智を弄して金錢の支出を求め甚しきに至りては詐欺、恐喝に類する行爲を敢てする者漸く多からむとする傾向あり本廳に於ては嚴重之が取締を勵行し來り候得共此の際一歩を進め是等不正行爲の根絶を期し度存念に有之候處此の種取締は警察と公衆との間に密接の連絡を保ち兩々相輔け相應じて之を行ふにあらざれば到底十分の成果を收め難きことゝ存候に就ては今後右樣御迷惑のことも候はゞ御遠慮なく當廳刑事部搜査課若は所轄警察官署に電話等に依り速報被下度直樣係員派遣相當の措置に出づべく候申迄も無之候得共萬一後難を慮る等の關係より之を默祕せられ候樣のことありては却て彼等の非行を助成する所以にも有之其の邊御含の上必ず御通報相成候樣致度此段得貴意候　敬具

警視總監　岡喜七郎

搜査課電話　公衆　丸ノ内五二六　丸ノ内五二七
　　　　　　警察電話　二七　二八

記

一、新聞、雜誌記者又は興信所員等と稱し弱點に附込み恐喝類似の行爲を爲し若は新聞雜誌の特刊又は記念號出版等を名とし寄附又は廣告の申込を强要するの類

一、銀行、會社等の增資、擴張總會其の他內部事等の當込みを祝儀其の他の名目に依り贈與を强請するの類

一、新聞、雑誌、寫眞帳其の他各種記念印刷物等の押賣を爲し又は申込なき廣告を掲載して料金を強要するの類
一、名を慈善、公共、祭事又は勞働、風教其の他各種團體の創設等に藉り寄附を強ふるの類
一、各種の勸誘員等にして知名人士の名刺又は紹介狀等を僞造し之を利用して不正の利を圖るの類
一、其の他俗に壯士と稱する輩にして金錢の提供を強ふるの類

會報

○十月例會

十月十二日午後一時半より牛込區河田町女子醫學專門學校講堂に於て本會例會を開く、講師醫學士古瀬安俊氏は理髮の衞生と題し、先づ日本に於ける理髮、特に婦人結髮の沿革を述べ、次に微細に亙りて理髮の衞生を説かれ、眞に興味あり且つ有益なる講演にて一般聽衆を裨益する所多大なるものありき、本講演筆記は演者の校閲を經て來春の本誌初號に掲載するを得べきか。次に本會評議員たる女子醫學專門學校長吉岡彌生女史は妊婦の攝生に就てと云へる題下に實際上最も大切なる妊婦の心得に就てその實地上の經驗より懇切に説かれたり、本號講演欄に掲ぐる所のものは、その要旨なり。

右の講演了りて直ちに閉會、別室に於て茶菓の饗あり、歡談の後全く散會せるは四時過なりき。當日は吉岡校長初め同校職員、學生諸姉の懇切なる斡旋により、近年稀なる快き例會を開き得たるは、本會役員一同の感謝する所なりとす。

○本會懇親會

十一月十二日午後一時より九段坂上偕行社に於て本會懇親會を開く、午後一時半本會總裁東伏見宮妃周子殿下御臺臨、會長以下玄關に奉迎、暫時階上の貴賓室に御休憩中本會役員及び講師等に謁を賜ひ、やがて會長の御先導にて宮家別當、御用掛、本會役員を從へさせられ式場に臨御、會員一同起立敬禮の裡に御著席あり、直ちに本會書記莊司秋次郎氏開會を宣するや本會會長鍋島侯爵夫人開會の辭を述べ、次で本會理事鳩山春子女史の演説あり精神衞生特に

未婚の少女の爲に結婚の眞意義、その難關、これに對する覺悟等につき滔々三十分餘に亙りて快辯を振はれたり。右了て暫時休憩の後餘興の長唄及び活動寫眞等あり、何れも大喝采の裡に演了、殿下には暫し御休憩の上御機嫌麗しく御歸邸あらせられ、會員は別室に於て歡談に時を移し、その全く散會したるは夕刻なりき。當日は來會者二百餘名、來賓中には、佐々、二木、中原、岡田等の醫學博士も見受けられたり、尙ほ當日出席の本會役員氏名を記すれば左の如くなりき。

會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　男爵夫人　濱尾作子
理事　鳩山春子　長谷川仲子　岡田德子
　高木銕子　天野たき子　三浦敎子
評議員　緒方悅子　小川孝子　吉岡彌生子
　高橋孝子　中濱芳子　山口貞子
　松井正子　近藤憲子　原光子
　三宅藤子　宮本樂子　守屋千代子

○當日寄附

一金貳拾五圓也　總裁宮妃殿下御下賜金
一金拾圓也　會長　侯爵夫人　鍋島榮子
一金貳圓九拾錢也　理事　長谷川仲子
一金五圓也　評議員　片山總子
一金參圓五拾錢也　同　子爵母堂　松井正子
一金五圓也　岸澄子
一金五圓也　特別會員　足立淸子
一金五拾錢也　同　瀨川すゞ子
以上

○評議員田村喜代子氏の訃

本會評議員田村喜代子刀自は腦溢血の爲め去る十月三十一日遂に逝去せらる誠に痛惜の至に堪へず本會は玆に謹で哀悼の意を表す。
（十一月二日の告別式には多数の本會役員參列したり）

○入會者

○天野多喜子紹介
麹町區一番町宮內省官舍　特別會員　男爵夫人　大森鈴子
○山口貞子紹介
牛込區矢來町三　特別會員　栗本花子

私立大日本婦人衛生會役員氏名

總裁　東伏見宮妃周子殿下
會長　侯爵夫人　鍋島榮子
副會長　子爵夫人　濱尾作子

（いろは順）

理事　鳩山春子
同　岡田德子
同　天野多喜子
評議員　入澤常子
同　服部繁子
同　子爵母堂　仁禮壽賀子
同　土肥多越子
同　岡山とし子
同　男爵母堂　加藤鈴子
同　吉岡彌生子
同　高橋孝子
同　中濱芳子
同　松平芳子
同　男爵夫人　古市幸子
同　相磯まさ子
同　岸澄子
同　宮本樂子
同　守屋千代子
同　長谷川仲子
同　高木鐐子
同　三浦敎子
同　羽田三緒子
同　原光子
同　男爵母堂　西舛子
同　緒方悦子
同　小川孝子
同　片山〔?〕子
同　丹波貞子
同　男爵夫人　南部限子
同　山口貞子
同　子爵母堂　松井正子
同　近藤蕊子
同　男爵母堂　青山孝子
同　菊池峯子
同　三宅藤子
同　瀨川さわ子

大正十年十二月七日印刷
大正十年十二月十日發行

東京市本郷區駒込千駄木町五十八番地
編輯者兼發行者　莊司秋次郎

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷者　柴山則常

東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所　合資會社　杏林舍

東京市本郷區駒込千駄木町五十番地
發行所　私立大日本婦人衛生會事務所
（振替東京一〇六〇〇番）

賣捌所
東京市本郷區龍岡町　吐鳳堂
同市銀座三丁目　東海堂
同市京橋區鎗屋町　貢明堂
同市同區龍岡町　南江堂支店
同市芝區愛宕町　明文館
京都市寺町二條南入　若林茂一郎
東京京橋元數寄屋町　北隆館
同市神田區表神保町　東京堂
同市本郷區本富士町　盛春堂
名古屋市榮町六丁目　丸善書店

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

LACTOSTASE

ラクトスターゼ

乳酸菌製劑の諸種腸疾患に有效なるは多數の實驗に認められたるところなり。

ラクトスターゼは二種の有力なる乳酸菌より成り、耐酸性强きを以て、能く胃中を通過し、腸に至りて繁殖し、糖類存在の下に發生機の乳酸を產生する作用あるにより、腸管內に於ける諸種の有害菌を撲滅し、以て異常醱酵及腐敗に因する有毒物質の發生を抑止し、膽汁並に膵液の分泌機能を調節して蛋白質の消化吸收を佳良ならしむ。

ラクトスターゼ適應症

腸の疾患（例之腸加答兒、乳兒の綠便、赤痢、チフス、常習便秘等）腎及肝の諸症（肝臟硬化症、慢性腎臟炎等）皮膚病（濕疹、蕁麻疹等）營養障害器質變性（貧血、早老、動脈硬化等）蛋白質含有食品多食の要ある諸症（肺結核、糖尿病等）

用量　一回〇・三―〇・五（錠劑一―三錠）宛一日三回食後直に服用せしむ。

▲**注意**　本劑御購入の際は包裝に明記せる有效期限に注意せられたし、期限經過後のものは無效の虞れあり。類似品あり、玉石混同なき樣乞御留意　〇文獻集あり贈呈す。

包裝　粉末十四瓦、二十八瓦、百瓦、半磅、一磅、錠劑（〇・一三）五十錠、百錠入等あり。

本社　東京日本橋室町

三共株式會社

出張所　大阪北濱　淡路町　府後街